



二松學舎大學

受講料
無料

柏キャンパス

生涯学習講座

平成25年度5月開講

通年講座のご案内

- ◆ 国文学・中国文学・国際政経・書道・韓国語の多彩な分野から10講座
- ◆ 1講座につき登録料1,000円

申込締切日
4/10(水) 必着

ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

開講科目一覧

講座番号	講座名	日程
25-1	東アジア家族法概観 講師／清水 秋雄(本学元教授)	5/13~12/9 月曜 全10回 10時50分~12時20分
25-2	名詩鑑賞 講師／大地 武雄(本学教授)	5/13~12/9 月曜 全10回 13時10分~14時40分
25-3 25-4	漢文講読講座 講師／録田 勲(附属柏高校元教諭)	5/14~12/10 火曜 全10回 25-3) 10時50分~12時20分 25-4) 13時10分~14時40分 ※2コマ開講。内容は同じです。
25-5	シルクロードの歴史と文化を学ぶ — 西域踏査40年・日中の文化交流に悠久の夢と ロマンを馳せて — 講師／山田 勝久(本学講師)	5/8~12/11 水曜 全10回 10時50分~12時20分
25-6	万葉集の謎 講師／針原 孝之(本学名誉教授)	5/8~12/11 水曜 全10回 13時10分~14時40分
25-7	書画の見方・読み方・楽しみ方 講師／寺内 進(本学講師)	5/9~12/12 木曜 全10回 10時50分~12時20分
25-8	日本芸能論 — 謡曲(能)狂言をめぐる文学の展開 — 講師／松田 存(本学名誉教授)	5/9~12/12 木曜 全10回 13時10分~14時40分
25-9	ハンゲルで親しむ韓国 ~パートII 講師／田村 紀之(本学客員教授)	5/10~12/13 金曜 全10回 10時50分~12時20分
25-10	書作歳時記 講師／源川 進(本学教授)	5/10~12/13 金曜 全10回 13時10分~14時40分

平成25年度 講座カレンダー

月 火 水 木 金 開講日 大学閉鎖日・休祝日

- ・このカレンダーは開講日を示します。
- ・今年度は原則として、第2週及び第4週に開講します。
- ・休講により補講を実施する際は第1週もしくは、第3週、第5週に行います。

5月

月	火	水	木	金
		1	2	3
6	7	8	9	10
13	14	15	16	17
20	21	22	23	24
27	28	29	30	31

6月

月	火	水	木	金
3	4	5	6	7
10	11	12	13	14
17	18	19	20	21
24	25	26	27	28
31				

7月

月	火	水	木	金
1	2	3	4	5
8	9	10	11	12

10月

月	火	水	木	金
	1	2	3	4
7	8	9	10	11
14	15	16	17	18
21	22	23	24	25
28	29	30	31	

11月

月	火	水	木	金
				1
4	5	6	7	8
11	12	13	14	15
18	19	20	21	22
25	26	27	28	29

12月

月	火	水	木	金
2	3	4	5	6
9	10	11	12	13

申し込みから受講まで

【1】申し込み

- 往復はがきに、【氏名(ふりがな)】【性別・年齢】【住所】【電話番号】【希望講座番号】を記入し、お申し込みください。

<往復はがき記入例>

- 電話による受付は行いませんので、必ず往復はがきで申し込んでください。
- 申し込み講座数に制限はありません。
- 申し込みの締切日は、

4月10日(水曜日)【必着】です。

【2】返信ハガキ「受講票」が届く

- 各講座は先着順で受付します。定員になり次第締め切らせていただきます。
- 受講の可否は4月30日(火)までに返信ハガキでお知らせします。
- 返信ハガキが「受講票」となります。

【3】受講と登録料の納入について

- 各講座の初回時に受講票ハガキをお持ちください。
- 各講座の初回時に受講票記載の教室にて、登録料1,000円をお支払いください。
なお、一度ご納入いただいた登録料は、ご返金いたしかねますので、ご了承ください。

【4】受講者特典(平成26年3月まで有効)

- 図書館の利用
- 学生食堂および売店の利用

【5】その他

- 天候や講師の都合等により日時の変更や休講となる場合があります。その場合は別途連絡します。
- 館内は禁煙です。定められた場所以外での喫煙はご遠慮ください。

往信(宛名面)	返信(文面)	返信(宛名面)	往信(文面)
<p>往信 〒277-8585</p> <p>二松学舎大学柏事務課 生涯学習講座係</p> <p>柏市大井二五九〇</p>	<p>何も記入 しないで 下さい。</p>	<p>返信 〒277-0000</p> <p>例) 二松 太郎 行</p> <p>柏市二松二丁目二三</p>	<p>(記入例)</p> <p>【ふりがな】 にしょうたろう</p> <p>【氏名】 二松 太郎</p> <p>【性別・年齢】 男・50歳</p> <p>【住所】 柏市二松1-2-3</p> <p>【電話】 04-7191-****</p> <p>【希望講座番号】 25-1、25-2、25-5</p>

交通のご案内

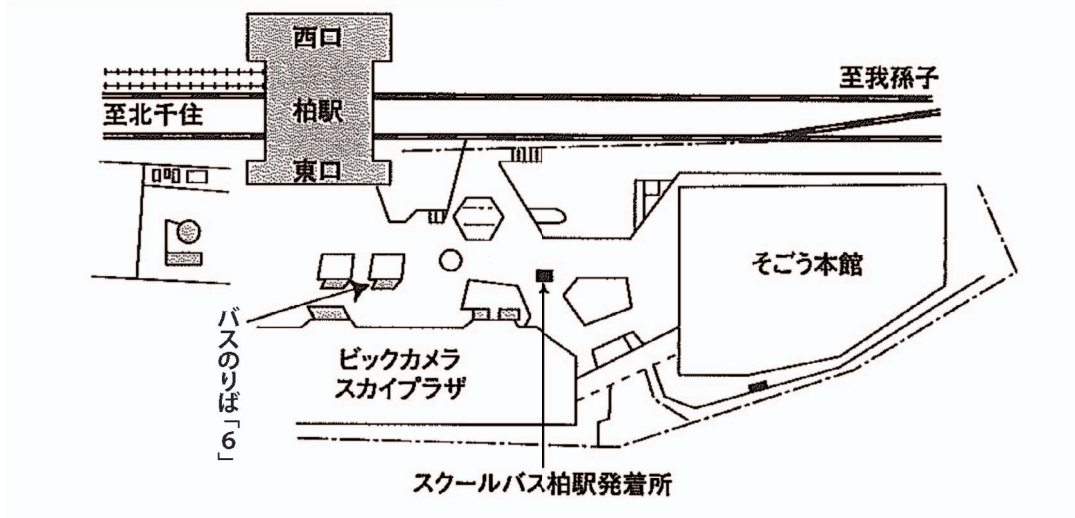
● JR常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線 「柏駅」 下車



● 柏駅東口（企業バスのりば）より **スクールバス（無料）** で約15分

- ・スクールバス柏駅発着所は、東口を出てすぐ左折、バスのりば「6」の表示のある階段を降りた場所です。
- ・**駐車場はありません**ので、スクールバスをご利用ください。

スクールバス乗場案内図



スクールバスダイヤ

・変更となる場合がありますので、ホームページをご確認ください。

時	校舎行（柏駅発）	
8	20	35
9	05	35
10	05 20	35
11	05	35
12	05	35
13	05	35
14	05	35



二松學舎大學

柏キャンパス

〒277-8585 千葉県柏市大井2590

ホームページ

<http://www.nishogakusha-u.ac.jp/>

お問い合わせ先

二松學舎大学 柏事務課「生涯学習講座係」 ☎04-7191-8751（直通）

講座番号：25-1

開講日：5/13・27、6/10・24、7/8、10/7・28、11/11・25、12/9

東アジア家族法概観

二松學舎大学元教授 清水^{しみず} 秋雄^{あきお}

「東アジア」と言っても、主に日本、台湾、中国の家族法を比較しながら勉強して行こうと考えている。民法のなかで民族の伝統や倫理的な特徴をよく表してくるのは家族法である。そのため、他国の家族法を知ることは、その民族を理解する重要な鍵にもなる。

台湾の国民は、90%以上は漢民族なので民族の構成から言えば中国と近い。ただし、法的根源または法の理念から言えば台湾の家族法は日本の家族法とは非常に近い、あるいはよく似ていると考えられる。その理由は、台湾法と日本法とは同じくヨーロッパ法の真似であるからである。この講座はまず同じ漢字文化圏のそれぞれの家族法の習得により、各民族間の理解と寛容の出発点や深化を期待している。

曜日時限 月曜／10：50～12：20 定員 100名 登録料 1,000円 教材 資料配付

講座番号：25-2

開講日：5/13・27、6/10・24、7/8、10/7・28、11/11・25、12/9

名詩鑑賞

二松學舎大学教授 大地^{おおち} 武雄^{たけお}

唐代に作られた数々の名詩は、中国文学の華といわれ、中国文学を代表する作品群です。

その中から、季節の変化をよんだもの、人との別れをよんだもの、人生の喜怒哀楽をよんだもの、旅の苦しみや望郷の念をよんだもの等々、今日においても多くの人々に感動を与えてやまない名詩中の名詩を選んで、皆さんとともに鑑賞します。

曜日時限 月曜／13：10～14：40 定員 100名 登録料 1,000円 教材 資料配付

講座番号：25-3・4

開講日：5/14・28、6/11・25、7/9、10/8・22、11/12・26、12/10

漢文講読講座

※同じ内容で2コマ開講

二松學舎大学附属柏高校元教諭 録田^{ろくた} 勲^{いさお}

基礎的な漢文訓読の方法や句法を学びながら、漢文の名文を読み味わい、漢文についての理解を深めることを目的とする。

教材内容の前半は『論語』。今年度は「述而第七」・「泰伯第八」の本文を訓点に従って素読する。後半は『中国の歴史』。唐代の後半から宋代の前半の名作・名文を読み味わう。

テキストはプリント。

曜日時限 火曜／25-3 10：50～12：20 定員 各100名 登録料 1,000円 教材 資料配付
25-4 13：10～14：40

講座番号：25-5

開講日：5/8・22、6/12・26、7/10、10/9・23、11/13・27、12/11

シルクロードの歴史と文化を学ぶ

— 西域踏査40年・日中の文化交流に悠久の夢とロマンを馳せて —

二松學舎大学講師 やまだ 山田 かつひさ 勝久

シルクロードは、東洋と西洋の古代の文化交流の道です。中国の絹織物や陶磁器が、遠く砂漠を越えてギリシアやローマに伝わっています。また、ペルシアからはガラス製品や楽器が、ガンダーラ地方からは仏教がパミール高原を越えて中央アジアに流入し、中国や日本に伝わってきました。

本講座では、シルクロード踏査54回の体験を有する講師が、シルクロードの今と昔を映像と出土古文書を解説しながら分かりやすく説明します。

なお、日中の文化交流の変遷を、遣隋・遣唐使の持ち帰った文物を分析し、古代の日本人が何を求め何を考えていたかを探ります。さらに、シルクロードの山や河や砂漠を詠んだ唐朝の辺塞詩も学習し、漢詩の作り方も学びます。

曜日時限 水曜／10：50～12：20 定員 100名 登録料 1,000円 教材 資料配付

講座番号：25-6

開講日：5/8・22、6/12・26、7/10、10/9・23、11/13・27、12/11

万葉集の謎

二松學舎大学名誉教授 はり はら 針原 たか けい 孝之

万葉集は現存最古の歌集で、約4,500余首が収められています。この歌集には天皇から庶民までの歌が詠まれており、組織・分類の統一はなされていません。当時の人々の心を率直に歌った作品を読んでいると、いろいろな疑問・謎が生じてきます。従来の研究をふまえて、この疑問点・謎について話をいたします。

今回は以下の題目で開講します。

1. なぜ雄略天皇の歌が巻頭歌で家持歌が巻末か
2. 磐姫皇后の歌は虚構か
3. 額田王歌の疑問
4. 中大兄の三山歌の疑問
5. 柿本人麻呂歌集は全て人麻呂作か、人麻呂の死をめぐる疑問
6. 持統天皇の吉野行幸への疑問
7. 巻5の編纂者は誰か
8. 日本挽歌は旅人の妻の死か憶良の妻の死か
9. 東歌の編纂者は誰か
10. 家持歌の疑問

曜日時限 水曜／13：10～14：40 定員 100名 登録料 1,000円 教材 資料配付

講座番号：25-7

開講日：5/9・23、6/13・27、7/11、10/3・24、11/14・28、12/12

書画の見方・読み方・楽しみ方

二松學舎大学講師 てらうち 寺内 すすむ 進

歴史上の人物に限らず、先人達が遺した書画類は巷に数多くあります。しかし、正しく読まれ鑑賞されている作品は少ないのではないのでしょうか。

書画を鑑賞する場合、作品が放つ“気韻”を感じる事が最も大切ですが、読み方（内容）・作者・背景などが判ってくると、さらに別な感興が湧いて一層親しみを覚えることがよくあります。

本講座では、書画鑑賞の入門として、書画・拓本等の現物に多く触れ、見て、読んで、何かを感じることを勉強していきたいと考えています。初心者でもわかるように、崩し字や漢字・漢文の読み方、調べ方についても丁寧に解説していきます。

教材としては、江戸以降の書画・古文書・手紙、中国書道史上の拓本などを考えていますが、受講者がお持ちの、読めない書画などがあれば、それも適宜教材として取り上げ、みんなで読んでいきたいと思ひます。

曜日時限 木曜／10：50～12：20 定員 50名 登録料 1,000円 教材 資料配付

講座番号：25-8

開講日：5/9・23、6/13・27、7/11、10/3・24、11/14・28、12/12

日本芸能論 — 謡曲(能)狂言をめぐる文学の展開 —

二松學舎大学名誉教授 まつだ たもつ 松田 存

たまたま今年（平成25年2013）は、世阿弥生誕650年、その父観阿弥生誕680年という節目の年に当る。そこで本講座では、能・狂言の大成で知られる世阿弥の出自から生涯を、中世（14、5世紀）室町時代とされる歴史的背景から江戸時代、更に近・現代に至るその流れを詳説。かつ世阿弥の遺した21点に及ぶ伝書（芸能論書）をあげ、文化的教養書とも、文学的香りも高い『風姿花伝』をはじめ『花鏡』等の一部も講読することになろう。併せて、現行二百数十曲に及ぶ作品（謡曲）の数々からその本説（素材・典拠 - 原作）としての先行文学作品との関わりを学びとることにしたい。

曜日時限 木曜／13：10～14：40

定員 100名

登録料 1,000円

教材 資料配付

講座番号：25-9

開講日：5/10・24、6/14・28、7/12、10/11・25、11/8・22、12/13

ハンゲルで親しむ韓国 ～パートII

二松學舎大学客員教授 たむら としゆき 田村 紀之

ハンゲルに挑戦してみませんか。だれでも簡単に覚えられるこの文字をマスターすれば、韓流ドラマやカラオケの韓国演歌も、より楽しいものになるはずです。今年度は、映像と音楽にもっと時間をさいて、韓国に親しむ機会をふやしたいと思っています。

初心者も既習者も大歓迎します。

曜日時限 金曜／10：50～12：20

定員 50名

登録料 1,000円

教材 資料配付

講座番号：25-10

開講日：5/10・24、6/14・28、7/12、10/11・25、11/8・22、12/13

書作歳時記

二松學舎大学教授 みな がわ すすむ けんぼう 源川 進（彦峰）

書道をやっている人が展覧会で発表している作品を見る事ほどつまらない物はありません。それは、ただ「墨場必携」等に収録されている語句の中から書き易い題材を探してきて、技巧を凝らして書き放ち、表具をしてぶら提げているからなのである。そこには、個人の感慨も、思想も、生活形態から醸し出される雰囲気も何もありません。ただそこに有るのは技巧だけのひけらかしなのです。そんな素晴らしい巧みな作品は見ても琴線が揺れないので。そんな作品に誰がしみじみ感じて足を止めて見入ってくれるでしょうか。

それは一概にその人の作品を責めるわけにもいかないでしょう。今日の時代が良くないのかも知れませんが。ただコストと利益のみを追求して、人の心の陶冶に気を置く時間を無くしてきた付けがここに来て殺伐とした社会を作り上げてしまったからなのです。そこで滋味溢れる心を取り戻すために、この講座を結成致しました。

国・中の文学をベースにし、がつりょう月令に従い、書作と季節季節の因果関係を確かめながら、季節の風の色を見、音を確かめ合い、草花を愛でながら皆さんとゆっくり書作を楽しみたいのです。きっと失いかけていた日本人の心を再発見し、魂を揺さぶる書作が出来ると思いますよ。きっと！

曜日時限 金曜／13：10～14：40

定員 50名

登録料 1,000円

教材 資料配付